



製品安全データシート

危険記号	保護具	記号
		規定されていません

発行日 2013年4月23日

改訂日

改定番号

1. 製品及び会社情報

製品名	Cycloheximide
製品コード	2112
推奨用途	人に使用しないこと。 研究上の使用のみ。
会社	CSTジャパン株式会社 東京都千代田区内神田1-6-10 TEL: 03-3295-1630
登録番号	S029

2. 危険有害性の要約

GHS分類

注意喚起語

危険



危険有害性情報

- 飲み込むと生命に危険。
- 皮膚刺激。
- 強い眼刺激。
- 遺伝性疾患のおそれの疑い。
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれ。
- 水生生物に毒性。
- 長期的影響により水生生物に毒性。

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外

自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分1
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A-2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	区分2
水生環境慢性有害性	区分2

注意書き:**【安全対策】**

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 適切な保護手袋を着用すること。
- 適切な保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 適切な個人用保護具を使用し、ばく露を避けること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 環境への放出を避けること。

【応急措置】

- 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
- 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
- 皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。
- 皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを求めること。
- 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
- ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
- 漏出物は回収すること。

【保管】

- 施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

製品タイプ 混合物

危険有害成分

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	化審法番号	安衛法番号	CAS番号
Cycloheximide	>95%	C ₁₅ H ₂₃ NO ₄	4-295	8-1-561	66-81-9

4. 応急措置

吸入した場合	医師の手当、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	消火水は汚染を引き起こすおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 密閉された場所に立入る前に換気する。 低地から離れる。
-----------------------	---

環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化方法・機材	データなし
二次災害の防止策	データなし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策 局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 眼、皮膚との接触を避けること。 飲み込まないこと。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 環境への放出を避けること。
保管	接触回避 混触危険物質 保管条件 容器包装材料	データなし データなし 施錠して保管すること。 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	未設定。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
日本産衛学会（2007年版）	未設定
ACGIH（2007年版）	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物質の形状	固体（結晶）
物質の色	無色
物質の臭い	データなし
物質のpH	データなし
融点・凝固点	115～116℃：NITE総合検索（Access on Sep. 2008）
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし

9. 物理的及び化学的性質

引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性 (固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	1.89E-14mmHg (25°C) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)
蒸気密度	データなし
蒸発速度 (酢酸ブチル=1)	データなし
比重 (密度)	データなし
溶解度	水 2.1g/ml (2°C) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)
オクタノール・水分係数	logPow=0.55 : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率 (導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	加熱すると分解し、窒素酸化物を含む有毒で腐食性のヒュームを生じる。
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

製品情報

急性毒性	経口	ラットにおける経口LD50 = 2 mg/kg (RTECS(2004), HSDB(2002))と3.7 mg/kg (SITTIG(4th, 2002))のうち、毒性の強い値 (LD50 = 2 mg/kg)を採用し区分1とした。
	経皮	データなし
	吸入	吸入 (ガス) : GHSの定義における固体。 吸入 (蒸気) : データなし 吸入 (粉じん) : データなし 吸入 (ミスト) : データなし

化学名	LD50/経口	LD50/腹腔内
Cycloheximide	2 mg/kg (Rat)	-

皮膚腐食性・刺激性	ウサギにおけるStandard Draize Testにおいて” Moderate (中程度) ” の刺激があること (RTECS(2004))、ヒトの皮膚を刺激するとの記述がある (ICSC(J)(1997), HSDB(2002), SITTIG(4th, 2002), HSFS(1999)) ことから、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ヒトの眼を刺激するとの記述がある (ICSC(J)(1997), SITTIG(4th, 2002), HSFS(1999)) ことから、区分2 A-2 Bとした。なお、本データからの細区分は困難である。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 : データなし 皮膚感作性 : データなし

生殖細胞変異原性	マウス骨髄小核試験で陽性（RTECS(2004)）から区分2とした。なお、in vitro遺伝毒性試験のAmes試験では陰性、マウスリンフォーマ試験では陽性と報告されている（RTECS(2004)）。
発がん性	データなし
生殖毒性	妊娠ラット/マウスに対し、胚吸収、胎児致死、多肢症等の骨格異常が見られたこと（Catalogue of Teratogenic agent(2004), RTECS(2004)）、EUリスク警句で” R61, カテゴリー2” であること、ならびにCalifornia EPA Prop 65 (2006)でdevelopmentalと記載されていることから、区分1Bとした。
標的臓器/全身毒性（単回ばく露）	データなし
標的臓器/全身毒性（反復ばく露）	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境急性有害性	魚類（ニジマス）の96時間LC50=1400 μ g/L（AQUIRE、2003）から、区分2とした。
水生環境慢性有害性	急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いものの（BCF<2.8（既存化学物質安全性点検データ））、急速分解性がない（BODによる分解度：1%（既存化学物質安全性点検データ））ことから、区分2とした。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

<u>IMDG/IMO</u>	国連番号：UN2588，輸送固有名：殺虫殺菌剤類，クラス：6.1
<u>ICAO</u>	国連番号：UN2588，輸送固有名：殺虫殺菌剤類，クラス：6.1
<u>IATA</u>	国連番号：UN2588，輸送固有名：殺虫殺菌剤類，クラス：6.1
<u>DOT</u>	国連番号：UN2811，輸送固有名：その他の毒物，クラス：6.1，packing group：I
<u>TDG</u>	規定されていません
<u>MEX</u>	規定されていません
<u>RID</u>	規定されていません

1 4. 輸送上の注意

ADR 規定されていません

ADN 規定されていません

1 5. 適用法令

毒物及び劇物取締法: 劇物（法第2条別表第2）（法令番号：2-27）

1 6. その他の情報

改訂日

改定メモ

推奨される制限

免責条項

このMSDSの情報は、その公開の時点において弊社の有する知識、情報及び見解の限りにおいて作成されています。提供した情報は、安全な取り扱い、使用、加工、貯蔵、輸送、廃棄及び放出のためのガイドのみを意図としたものであり、品質を保証しているものではありません。この情報は指定した特定の物質のみに関するものであり、他の物質とともに使用する場合、または他のプロセスで使用する場合はこのMSDSに記載のない限り適用されないことがあります。